

WINEREDの運用実績と改修計画

○大坪 翔悟¹ 松永 典之² 谷口 大輔³ 竹内 智美¹ 猿楽 祐樹¹ 佐川 英夫¹ 河北 秀世¹ 池田 優二⁴ (1.京都産業大学 2.東京大学 3.東京都立大学 4.株式会社フォトクロス)

WINEREDは、チリ・6.5mマゼラン望遠鏡に搭載された高感度な近赤外線高分散分光器であり、京都産業大学と東京大学、東京都立大学を中心に運用されている。これまでは、マゼラン望遠鏡を管理するカーネギー天文台およびラスカンパナス観測所の協力のもと、各セメスターに1~2回の観測期間を設けて実施してきた。PI装置でありながら、マゼラン望遠鏡へのアクセス権を有する研究者であれば観測提案が可能な運用体制を採用しており、多様な研究機関から幅広い分野にわたる観測提案が寄せられている。

近年の利用需要の増加を受け、2027年以降はナスミス台への常設を視野に入れた継続的な運用への移行を計画している。一方で、京都においてチーム内に限定された観測から発展してきたWINEREDを、海外の大型望遠鏡において常時利用可能な共同利用装置として運用するためには、運用体制の整備に加え、装置の安定性・汎用性・保守性の向上を目的とした改修が不可欠である。

本講演では、これまでのWINEREDの運用実績と利用状況を概観するとともに、継続的な観測に向けて進めている運用体制の見直しおよび装置改修計画について報告する。

